

財団法人国際高等研究所

2008 年度(平成 20 年度)

事業活動報告

目次

1. 管理運営活動 … P1
2. 研究事業 … P2~4
3. 学術情報・広報事業等 … P5~6

2009 年 6 月 16 日

本年度は2001年度のご就任以来 4期8年間の永きに渡り、当研究所の設立理念の実現と発展に貢献されてきた 金森 順次郎先生が、所長として研究事業を統轄される最終の年度であった。

この8年間の歩みを金森 所長におまとめいただき、「所長在任の8年間を振り返って」と題して、別紙に添付した。

## 1. 管理運営活動

### 1-1. 理事会、評議員会等の開催・運営

#### ① 理事会・評議員会(定例会)

- ・ 第 62 回理事会・第 56 回評議員会(2008 年 6 月 17 日)  
2007 年度(平成 19 年度)事業報告・収支決算の審議・承認、評議員・監事の選任等
- ・ 第 64 回理事会・第 57 回評議員会(2009 年 3 月 17 日)  
2009 年度(平成 21 年度)事業計画・収支予算の審議・承認、副理事長の選任等

#### ② 所長選考委員会、及び臨時理事会

- ・ 所長選考委員会(2008 年 9 月 5 日)  
次期所長候補者の推薦、ならびに選考
- ・ 第 63 回理事会(臨時)(2008 年 11 月 14 日)  
次期所長として、尾池 和夫氏(高等研フェロー、前京都大学総長)を選任

### 1-2. 企画委員会

- ・ 第 1 回(2008 年 6 月 6~7 日)  
2007 年度 研究事業実績概要説明、2008 年度 研究事業計画概要説明 等
- ・ 第 2 回(2008 年 10 月 24~25 日)  
2008 年度 研究事業実施状況報告、2009 年度計画案の審議 等
- ・ 第 3 回(2009 年 2 月 27~28 日)  
2008 年度 研究事業実績概要説明、研究代表者による各プロジェクト状況報告

### 1-3. 所長会議(定例会として、原則 2 回/月の頻度で実施)

### 1-4. 資産運用委員会

- ・ 第22回資産運用委員会(2008年11月25日)  
基本財産の「ジェンワース・ファイナンシャル債」1億円の格付けが Baa1 に変更となったことに伴い、資産運用基準(運用対象債権の基準は格付け A 以上とする)の例外措置適用を審議。現時点での売却は 7 割方の損失を確定させることになるとの判断の下、『同債券につき「運用基準外資産の処分」をせず、満期まで保有する』に決した。
- ・ 第23回資産運用委員会(2009年1月21日)  
満期償還となった2債権2億円の再運用として、『京都府公債 10 年物 2 億円』の購入を決した。

## 2. 研究事業

本研究所は、諸研究機関の組織を横断した研究者集団を組織して、人類社会が科学・技術の急速な発展に伴って直面している様々な問題について、問題解決のための新しい概念に基づく統合システムを創造することを究極の目的とした研究事業を展開している。研究事業は、特定の主題を3年程度の期間継続的に研究する研究プロジェクトのほかに、フォーラム、公開講演会等の学術集会、学術の新分野での若手専門家養成を目指すスペシャリスト養成事業を含んでいる。これらは既成の研究分野の壁を超えた研究者の知の交錯を必要とし他の研究機関では取り上げることが困難な課題を選択し、相互にも連携して、研究事業を展開している。本年度は、研究事業名を「人類社会の調和的発展のための問題解決の統合システム創造に係わる基礎研究」とし、科研費補助金「特定奨励費」に基づく21研究プロジェクト、4国際フォーラム、3公開講演会と2分野についてのスペシャリスト養成事業等を実施した。

### 2-1. 研究プロジェクト

2008年度は、下記のとおり継続16プロジェクト(第6年次1、第4年次2、第3年次6、第2年次7)及び新規5プロジェクトの計21プロジェクトを実施した。(各研究プロジェクトの研究会開催状況、研究会参加者の詳細は資料参照。)

#### < 研究プロジェクト／研究代表者 一覧 >

(1)近代精神と古典解釈:伝統の崩壊と再創造(2008～2010年度)

手島 勲矢(同志社大学大学院神学研究科教授)

(2)19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究(2006～2008年度)

吉田 忠(東北大学名誉教授)

(3)グローバル化と市民社会(2006～2008年度)

仁科 一彦(大阪大学大学院経済学研究科教授)

(4)スマとシステム(2007～2009年度)

亀本 洋(京都大学大学院法学研究科教授)

(5)数量的アプローチによる日本経済の比較的研究(2008～2010年度)

宮本 又郎(関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授／大阪大学名誉教授)

(6)細胞履歴に基づく植物の形態形成(2007～2009年度)

鎌田 博(筑波大学大学院生命環境科学研究科教授)

(7)絶滅と再生の生物学(2008～2010年度)

長谷川真理子(総合研究大学院大学先導科学研究科教授)

(8)生物進化の持続性と転移(2007～2009年度)

津田 一郎(北海道大学電子科学研究所教授)

(9)認識と運動における主体性の数理脳科学(2006～2008年度)

沢田 康次(東北工業大学学長／東北大学名誉教授)

(10)絵画と文学に表象される、時間と空間の脳による認識(2008～2010年度)

近藤 寿人(大阪大学大学院生命機能研究科教授)

---

(11)ナノ物質量子相の科学(2008～2010 年度)

金森 順次郎(所長／大阪大学名誉教授)

---

(12)スキルと組織(2006～2008 年度)

榎木 哲夫(京都大学大学院工学研究科教授)

---

(13)高度科学技術に伴う広域・学際的諸課題(2005～2008 年度)

金森 順次郎(所長／大阪大学名誉教授)

---

i 作業グループ 「メタマテリアルの物理と応用」(2007～2008 年度)

石原 照也(東北大学大学院理学研究科教授)

---

ii 作業グループ 「創発研究の新しい展開」(2008 年度)

安富 歩(東京大学東洋文化研究所准教授)

---

iii 作業グループ 「音声-音声の音響的特長と感情表現-」(2008 年度)

藤村 靖(フェロー／オハイオ州立大学名誉教授)

---

(14)生命科学の発展に対応した新しい社会規範の構築(2006～2008 年度)

位田 隆一(京都大学大学院公共政策連携研究部教授)

---

(15)女性研究者と科学技術の未来(2007～2009 年度)

伊藤 厚子(お茶の水女子大学名誉教授)

---

(16)次世代情報サーチに関する総合的研究(2007～2009 年度)

田中 克己(京都大学大学院情報学研究科教授)

---

(17)高度計測技術の発展と埋没(2007～2008 年度)

本河 光博(科学技術振興機構先端計測技術推進部プログラムオフィサー／東北大学名誉教授)

---

(18)文化財保全技術(2006～2009 年度)

志水 隆一(大阪大学名誉教授)

---

(19)すきまの組織化(2007～2009 年度)

鳥海 光弘(東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

---

(20)学術研究機関における学術情報システムのモデル構築(2005～2008 年度)

北川 善太郎(副所長／京都大学名誉教授)

---

(21)共同研究の法モデル(2003～2008 年度)

北川 善太郎(副所長／京都大学名誉教授)

---

## 2-2. 研究プロジェクト以外の研究事業

### ① 民間資金による研究

「ものづくりにおける実践知を体得した人材の育成と継承に関する調査研究」(2008～2009 年度)

研究代表者:岩田 一明(大阪大学・神戸大学名誉教授)

財団法人新技術振興渡辺記念会「科学技術調査研究助成(平成 20 年度上期)」採択テーマ

## ② 国際フォーラム

- ・「言語、認識及び脳に関するワークショップ」 10月29日～31日(於:高等研)  
(IIAS Workshop on 'Language, Cognition, and the Brain')  
研究代表者:王 士元(William Shi-Yuan WANG)  
(フェロー/ The Chinese University of Hong Kong 教授)  
参加者:国内外の第一線の研究者 10名(ヨーロッパ1、米国2、アジア2、日本5)に加え、  
若手研究者 2名、合計 12名。
- ・「エネルギー科学における多階層連結コンピューティング」フォーラム 2回、幹事会 3回  
研究代表者:三間 囿興 大阪大学レーザーエネルギー学研究センター長
- ・「未来社会の課題」 9月17日(於:高等研)  
ドイツ Baden-Württemberg 州の(社)ドイツ・東アジア学術フォーラム(Deutsch-Ostasiatisches  
Wissenschaftsforum,e.V.)との共催。2007年1月の学術交流の覚書に基づき実施。  
参加者:独、中国、韓国の海外研究者 25名及び日本国内の研究者 10名、合計 35名。
- ・「民法の未来像」 5月1日(於:高等研)  
2005年8月の「『中国民法典立法高等研フォーラム』についての共同覚書」に基づき実施。

## ③ 研究成果のとりまとめ

- 「多元的世界観の共存とその条件～閉ざされた世界から開かれた世界へ～」(2005～2007年度実施)  
研究代表者:石川 文康(学術参与/東北学院大学教養学部教授) '09年度報告書出版の予定

## ④ その他 覚書等に基づく共同研究・研究協力など 4件を実施

### 2-3. 研究者招へい事業

- ①「フェロー(IIAS Fellow)」 : 11名(継続7名、新規4名)  
②「招へい研究者(IIAS Researcher)」 : 2名 の招へい事業を実施。

### 2-4. 専門的人材育成事業

- ・「コンピューショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)」ワークショップ  
実行委員長:赤井 久純(大阪大学大学院理学研究科教授)  
2002年度から大阪大学との共催事業として実施。高等研での講義、日本原子力研究開発機構関西光科学研究所と大阪大学のスーパーコンピュータとのインターネットで接続により、量子シミュレーション手法の修得を目的に実施。第13回:2008年9月6～10日、第14回:2009年3月2～6日の2回実施

### 3. 学術情報・広報事業 等

#### 3-1. 学術出版(研究成果報告書「高等研報告書」)

2007年度までに研究活動を終了した研究プロジェクトのうち、下記の5編の研究成果報告書を刊行。

- ①「隙間～自然・人間・社会の現象学～」125頁 2008年8月発行  
(2004～2006年度「隙間～自然・人間・社会の現象学」研究代表者 鳥海光弘)
- ②「ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義」275頁 2008年10月発行  
(2004～2006年度「ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義」研究代表者 津田一郎)
- ③「量子情報の数理に関する研究～エントロピー・ゆらぎ・マイクロとマクロ・アルゴリズム・生命情報～」  
340頁 2008年12月発行 (2003～2005年度「量子情報の数理」研究代表者 大矢雅則)
- ④「宇宙問題への人文・社会科学からのアプローチ」432頁 2007年12月発行  
(宇宙航空研究開発機構と共同発行/2003～2006年度「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題～  
人文・社会科学からのアプローチ～」研究代表者 木下富雄)
- ⑤「電子系の新しい機能」CD-ROM版 2009年3月発行  
(2005～2007年度「電子系の新しい機能」研究代表者 新庄 輝也)

#### 3-2. 一般公開イベント活動(公開講演会・茶会・合同見学会など)

##### ① 高等研公開講演会

京都銀行ご協賛事業

- ・「洛中洛外図を楽しむ～上杉本(狩野永徳筆 国宝)を中心に～」2008年5月31日開催  
講 師:山本 英男 京都国立博物館美術室長 125名参加
- ・「幹細胞研究の可能性～幹細胞 細胞の再生システムの不思議～」2008年10月25日開催  
講 師:西川 伸一 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長 101名参加
- ・「アンコール・ワットと国際貢献～カンボジアで人材養成18年～」2009年2月28日開催  
講 師:石澤 良昭 上智大学学長 115名参加

##### ② 高等研「雅松庵」茶会(第9回) 2008年5月17日開催

茶道裏千家、福寿園のご協力を得て開催。昨年度の194名を大幅に超える290名の参加。  
初参加者が約半分あり、近隣の高校・大学生等の参加も増えた。今後は恒例の高等研「雅松庵」茶会  
以外に、近隣住民の方々が気軽に茶室を使えるような催しを検討する予定である。

##### ③ 合同見学会(第3回) 2008年5月22日開催

隣接の(財)地球環境産業技術研究機構(RITE)とオムロン(株)京阪奈イノベーションセンタ(OMRON)  
の2機関と連携により合同見学会(施設見学)を開催。参加者:250名(高等研参加者のみの人数)

### 3-3. 地域連携イベント活動

今年度は(財)関西文化学術研究都市推進機構や国立国会図書館関西館などの立地機関や地域社会と連携し、協賛・後援イベント活動を推進した。

①「科学のまちの子どもたち」フォーラム ～けいはんな学研都市は子どもたちに何ができるか?～

- ・2009年2月21日 於高等研 110名の参加
- ・特別講演/金森順次郎 高等研所長「ノーベル賞とけいはんな学研都市」
- ・主催:(財)関西文化学術研究都市推進機構 (共催/国際高等研究所)

②「第8回ケータイ国際フォーラム「次世代技術 M2M セミナー」 2009年3月11日

- 於 高等研/八坂倶楽部 高等研/約60名、八坂倶楽部/約130名の参加
- ・主催:(財)関西文化学術研究都市推進機構、京都府、京都商工会議所他(共催/国際高等研究所)

③テーマ:「国立国会図書館関西館との共同展示(高等研開催行事との連携):

- ・2009年2月21日(土)「ノーベル賞を生み出した原典:関連資料・図書の展示」
- ・2009年2月28日(土)「アンコール・ワット遺跡関連資料・図書の展示」

### 3-4. 広報誌・WEB サイト

① 高等研ニュースレター「IIAS NEWSLETTER」

関係者や関係機関等に対する速報性のある広報紙として、高等研の事業や研究活動の計画・実施報告等について、偶数月に6回発行(第59号～第64号・3,000部)。

当年度は研究者や地域の皆様からの声のコラムの新設や写真・イラスト・図表を多用し親しみ易さや判り易さを追求、またページ構成も4ページから8～12ページへと質・量の拡充を図った。

② 高等研 WEB サイト(ホームページ)

「高等研ホームページ」は研究事業「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築」の事例研究として、「更新暫定版」の立ち上げ、コンテンツの更新、システム構築に取り組みられてきた。

2009年度上半期中には、より判り易いサイト構造とユーザーフレンドリーな画面設計へ再構築する予定である。